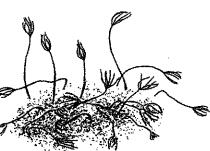


# 育苗暦

広島県農林水産局 林業課

区分 月	まきつけ床		床替床		報告等
	作業	主な作業のポイント	作業	主な作業のポイント	
1	○冬期苗木の管理	防寒・防湿対策	○烟地選定上のポイント	1、位置…自動車道との関係 2、地形…霜穴・風衝地・過湿地は不適当 3、土壤…特に理学性に注意 4、給水…乾燥時期の水源 5、労働力…供給源との遠近	○作業記録簿の整理
2	○付苗の決定	連作対策・新苗選定基準			
3	○施肥設計	連作地では、既堆肥・鶏糞等有機質を多い目に			
	○苗畑施設・機具の整備	いつでも使えるように			
	○寒中耕起	理学性向上と虫害防除を兼ねる			
	○資材・労務の手配				
4	○前年生産の幼苗・山行苗出荷	買う人の身になって、元気な苗木をすみやかに出荷しよう			
	○耕うん・整地	まきつけ床は、床替床より念入りにする必要がある			
	○病虫害予防・施肥	根切虫対策を忘れずに			
	○床づくり	過湿地では高く、巾狭く	○床替開始		
5	○発芽促進	●発芽促進	○床替	●床替	○幼苗配布報告(10日)
	○まきつけ	貯蔵種子10~14日 冷たい流水に	○除草剤散布	受け取った荷は、すぐといて水抜植を。	○育苗資金借入申込(月末)
	○水分管理	当年種子2~3日 冷たい流水に	○水分管理	根は10cm位に切りつめて、鳥足苗にならぬようていねいに植付けよう。	
	○日覆設置	床面を適度に濡らせてまきつける			
6	○水分管理	●病虫害防除(床替床にも共通)	○水分管理	●除草剤(まきつけ床にも共通)	○苗木作付報告(月末)
	○病虫害防除	立枯・赤枯・根切虫・キリウジガ・シロアリ等がねらっていますぞ!	○病虫害防除	除草剤は、手取り除草の後に散布する。	
	○除草		○除草		
7	○梅雨対策	●間引き	○梅雨対策	●梅雨対策(まきつけ床にも共通)	
	○病虫害防除	苗長が3cm位になった時に使う。	○病虫害防除	豪雨・長雨にそなえて排水路の整備をしておくこと。	
	○間引き	○寄生している所	○追肥		
	○追肥	○発育不良なもの	○除草		
	○除草	○被殺苗で回復見込みのないもの			
8	○旱害防止	●根切虫防除(床替床にも共通)	○旱害防止	●追肥(まきつけ床にも共通)	○播種床状況報告(月末)
	○病虫害防除	葉を必ず土の中へ混ぜ込むこと。	○病虫害防除	窒素分の追肥は遅くとも今月半ばまでに。	
	○間引き	表面散布では、ほとんど効果が期待できない。	○追肥	遅くれば秋伸びの原因となる。	
	○追肥		○除草		
9	○旱害防止	●台風対策(床替床にも共通)	○台風対策	●葉面散布(まきつけ床にも共通)	○8月末の育苗状況報告(10日)
	○病虫害防除	強風で日暮等があおられぬように、また風にもまれた苗木には必ず病害防除を。	○病虫害防除	根切虫被害の回復処置には葉面散布が良い。水10ℓに尿素50gが限度。	
	○除草		○除草	●根切り	
	○日覆除去		○整枝	15~20cmで根を切り、側根を多くし、徒長を防止する。	
	○根切り		○堆肥づくり		
	○堆肥づくり	直根を10cm位の深さで切って、側根を多く出し、がっしりした幼苗を得よう。			
10	○病害防除	●得苗調査(床替床にも共通)	○病害防除	●堆肥づくり(まきつけ床にも共通)	○山行苗得苗見込(15日)
	○根切り	1枚の畑で5ヶ所以上の調査区を設け、確実な本数を握ろう。	○根切り	原材料の約1.5倍が出来上がり堆肥の重量である。2,200kgの堆肥を得るためにには1,500kgのワラが必要である。	○播種床状況報告(月末)
	○得苗調査		○得苗調査		
	○堆肥づくり		○堆肥づくり		
11	○壊取・選苗	●壊取・選苗(床替床にも共通)	○壊取・選苗	●仮植(まきつけ床にも共通)	○出荷用表示票の準備
	○仮植	苗木を傷つけず、根を乾かさないようにしていねいに手早く。	○仮植	冬を越すものは、1本並べてていねいに、排水の良い畑へすること。	
	○出荷		○出荷		
12	○冬期苗木の管理	●冬期苗木の管理(床替床にも共通)	○冬期苗木の管理	●堆肥切り返し(まきつけ床にも共通)	○種子購入申込(28日)
	○堆肥切返し	雪腐れ病のおそれのある時は、根雪前にボルドー液を散布する。	○堆肥切返し	外側になっていた部分を中心部になるように積みかえ質の良い堆肥を得よう。	

## 主要病虫害防除法

立枯病	赤枯病	根切虫(コガネムシ類の幼虫)
		
感染期は、4月下旬に始まり、10月中旬に終了し、その後は5月上旬~7月上旬、8月下旬~9月上旬の二つの山がある。	感染期は、4月下旬に始まり、10月中旬に終了し、その後は5月上旬~7月上旬、8月下旬~9月上旬の二つの山がある。	(図)原色木本害虫部屋
○予防法 1. まきつけ前に土壌消毒を行う。(育苗指針3ページ参照) 2. 床をよく表面をカバコ土間に仕上げる。 3. 大山根土壌では、病害対策を多くする。 4. うさぎにして、畠土も厚めにすることにする。 5. 除草、間引きを十分にして、通気性をよくする。 ○防除法 1. ボルドー液を抜きとり、焼却する。 2. タチゲンの500~1000倍液を1m <sup>2</sup> 当たり3ℓを散布する。	○予防法 1. 病害苗を持ちこまない。 2. 苗畑付近にスギの生垣や接続木を設けることは避ける。 3. 実葉過多および病害の欠乏は、被害を大きくなる。 ○防除法 1. 4~4式ボルドー液、または、マンネブダイセンM(400倍)を、(展着剤加入)毎月1回以上散布する。 2. 6月中旬~7月中旬および9月には、月2回以上散布する。 3. 病害苗は抜きとり、焼却する。	苗木に被害をもたらすのは、4月中旬~6月中旬、7月中旬~10月中旬の2回である。 ○予防法 1. 苗畑付近にコガネムシを誘引するもの(ダイズ・アドウ・クリ・ハシノキ等)を植付かない。 2. 地中に耕起する。 3. 野菜みかん肥を使用する時は、殺虫剤散布を同時に行う。 4. 耕うんする時に、ダイアジノン剤やバイジット剤を1m <sup>2</sup> 当たり10~20g土に撒きこむ。 ○防除法 1. 7月中旬以降20日間隔で2~3回、上記薬剤の2000倍液を1m <sup>2</sup> 当たり2~3ℓ、土中によく入るように散布する。

## 生産目標 山行苗の規格

樹種	苗高	呼称	規格			摘要
			茎高	径	苗高の最高度	
す ぎ	1 中	35cm	6.5mm以上	50cm		本表の苗木はつぎの条件をそなえたものとする。
	2 大	45	7.5	70		(1) 品種系統の明らかなもの。(2) 苗木の根部は正常で根張りがよくT・R率が2.0~4.0のもの。
	2 中	35	7.0	70		(3) 無病・無傷で組織が充実し、下枝よく張り、奇形でないもの。
ひ の き	3 大	45	9.0	70		(4) 苗高は地上部の幹の長さとし、根元径は幹の周から地上1.5cmの箇所の幹を直径とする。
	2 中	35	6.0	70		(5) すきについては、根切りを実施したものとする。
	3 大	45	8.0	70		
あ か ま つ く ろ ま つ	2 中	20	5.0	35		
	2 大	25	6.0	35		
	1 ~	20	4.0	~		
や し や ぶ し	1 ~	15	3.5	~		
	1 ~	20	4.0	~		
	1 ~	20	4.0	~		
ひ め や し や ぶ し	1 ~	15	3.5	~		
	1 ~	20	4.0	~		
	1 ~	20	4.0	~		
や ま は ん の き	1 ~	15	3.5	~		
	1 ~	20	4.0	~		
	1 ~	20	4.0	~		

## 幼苗(1年生苗)の規格

樹種	呼称	苗高	規格			摘要
			スギ	ヒノキ	アカツク	
す ぎ	中	10上~12未満cm				本表の苗木はつぎの条件をそなえたものとする。
	大	12上~22未満				(1) 苗木の根が良く、細根の多いもの。
	中	10上~12未満				(2) 苗の根生本数が適度にあり、根幅もよいもの。
ひ の き	中	10上~12未満				(3) 根芽が根柢をうけば、病虫のないもの。
	大	12上~				(4) あかまつ・くろまつは根元が腐食しているもの。
	中	10上				
あ か ま つ く ろ ま つ	中	10上				
	中	10上				
	中	10上				

## 施肥基準例 畑地土壤 (単位 kg/10a)

樹種	施肥剤	肥料の種類	樹種別施肥量			摘要
			スギ	ヒノキ	アカツク	
す ぎ	堆肥	堆肥	2,200	2,200	2,200	新規開墾地(土壤のよくないう所)は20%増とする。
ひ の き	堆肥	堆肥	50	50	50	
あ か ま つ く ろ ま つ	堆肥	堆肥	35	27	30	
	硫酸銅鉄石灰(16.5%)	硫酸銅鉄石灰(16.5%)	55	45	50	土に混れないよう、堆肥とまぜて撒す。
	硫酸 鉀(5.0%)	硫酸 鉀(5.0%)	6	5	5	硫酸・加里どちらでも良い。
	硫酸 加里(5.0%)	硫酸 加里(5.0%)	6	5	5	硫酸・加里同じ肥料を使う。
	硫酸 加里(46.0%)	硫酸 加里(46.0%)	27	23	25	(内)内は堆肥の量。
	硫酸 加里(50.0%)	硫酸 加里(50.0%)	15	10	10	基肥と同じ肥料を使う。
	硫酸 加里(60.0%)	硫酸 加里(60.0%)	15	10	10	(内)内は堆肥の量。
	硫酸 鉀(46.0%)	硫酸 鉀(46.0%)	60	50	50	
	硫酸 鉀(50.0%)	硫酸 鉀(50.0%)	15	10	10	
	硫酸 加里(60.0%)	硫酸 加里(60.0%)	15	10	10	

## 床替本数の基準

樹種	1回目 の 床 替			2回目の床替
	1回	2回(6月下旬~7月中旬)	3回(7月上旬~8月上旬)	
す ぎ	36本			49本
ひ の き	42			64
あ か ま つ く ろ ま つ	64			—

## まきつけ床の間引き基準 (1m<sup>2</sup>当たり成立本数)

樹種	時 期 別 成 立 本 数			秋期成立本数
	1回	2回(6月下旬~7月中旬)	3回(7月上旬~8月上旬)	
す ぎ	1,400本	1,000本	700本	700本
ひ の き	1,600	1,200	800	800
あ か ま つ く ろ ま つ	1,000	800	650	650